

目的：坐禪は人間が俗念を除き無心の境に入るために静かに坐る行為である。平成2年と3年に北海道のK短期大学の女子大生(合計93名)は作文『坐禪の空間—どんな場所でどんな空間で坐禪がしたいか—』を執筆した。彼女たちの中で住居で参禪を希望している者は約1/12(8名)で非常に少ない。本論は作文をもとに彼女たちの中の85名の者が住居で参禪を希望しない原因を導く。

方法：本論はK短期大学の女子大生(93名)が参禪を希望する主な空間の条件である多数の植物に囲まれていること、広いこと、静寂、落ち着き、暗さ、畳の床を住居が満たしているか否かを導く。その際、本論は建築や環境意識に関する既存の統計調査結果をもとに住居空間の状態を標準化したり、空間の周囲または内部の状態をもとに空間状態を標準化したり、空間状態を細かい要素に分解する。本論は住居が満たしていない空間の条件を彼女たちの中の85名の者が住居で参禪を希望しない原因と判定する。

結果：K短期大学の女子大生(93名)の中で、約3/5(58名)の者は広い空間で、約4/5(76名)の者は静寂な空間で、約1/5(17名)の者は落ち着いた空間で、約1/3(26名)の者は多数の植物に囲まれた空間で、約1/3(30名)の者は畳の床で、約1/10(9名)の者は暗い空間で参禪を希望している。

住居は多数の植物に囲まれていないし一般寺院の本堂や屋外の自然空間より狭く、静寂及び落ち着きを確保しづらくなってきている。したがって、彼女たちの中の85名の者は住居で参禪を希望していない。